2025年11月27日

第61回基幹支店別総代懇談会における主な質問と要望事項に対する回答と今後の対処方針について

京都やましろ農業協同組合

2025年11月18日から20日にかけて開催しました基幹支店別総代懇談会におきまして、総代各位からお寄せいただきました主なご質問・要望事項の回答と今後の対処方針につきまして次のとおりご報告いたします。

１ 営農経済事業の対応について

（１）水稲高温耐性品種について

今年度において宇治市及び木津川市を中心に「きぬむすめ」の試験栽培を行いました。ＪＡが集荷した全ての米の１等米比率は、19％程度でありましたが、「きぬむすめ」に限っては、15％程度と低く高温障害の影響を受けました。この原因は、「きぬむすめ」は「ヒノヒカリ」より登熟期が１週間程度早く、「きぬむすめ」の登熟期において夜温が高温で推移し、「ヒノヒカリ」は、登熟期に雨が降るなど若干、夜温が下がったことが考えられます。しかし、収量は、「ヒノヒカリ」529ｋｇ/10aに対して、「きぬむすめ」573ｋｇ/10aと収量が多い結果となりました。

今回の結果を踏まえ、京都府の普及センターと連携し、今年度のデータ分析や栽培指導など検討し、栽培指針となる栽培ごよみを作成し、地域ごとに栽培研修会を開催します。

（２）山城産米について

「きぬむすめ」は、11月19日に京都府主要作物推奨品種等協議会にて奨励品種に推薦されることが決まりました。

また、11月13日に開催しました山城産米食味コンテストにおいても、機械審査では「きぬむすめ」の食味値がヒノヒカリより平均で２ポイント高くなっており、実食審査でもヒノヒカリと遜色ない結果となりました。

今回の結果を踏まえ、京都府の普及センターと連携し、「きぬむすめ」への切替を進めてまいりますが、当面は、ヒノヒカリも種子や水稲苗の提供を並行して行います。

2026年産米は、2026年６月末民間在庫が、適正数量を大幅に上回る見込みとなっており、米価の先行きは不透明な状況です。

当ＪＡの価格決定は、８月末に決定しますが、全国のＪＡの動きも参考にしながら、出荷契約前の最低価格の提示については検討します。

（３）多様な販売戦略の確立について

組合長を本部長とする農産物販売強化推進本部会議を設置し、管内特産物の販売戦略の立案、実践に取り組みました。特に万願寺とうがらし、京都田辺茄子の袋詰出荷、ネギをはじめ軟弱野菜やいちじくの販売拡充に取り組み、大手スーパーや量販店との直接取引を拡大しました。

また、中核的担い手への複合販売支援として、販売金額が 1000 万円以上の担い手を中心に生産指導はもとより販路拡大や経営支援まで行うこととし、訪問する職員の育成とあわせた取り組みを開始しました。

（４）有害鳥獣対策について

有害鳥獣対策として、宇治田原町においては柵を補助対象として提供しています。その他に、ＪＡでは、高周波と７つのＬＥＤを発光で動物（イノシシ・鹿・ハクビシン・アナグマ・アライグマ・ネズミなど）を傷つけずに撃退する「レンジャー５」や、天然ヒドデの臭いで動物（イノシシ・カラス・モグラ・ヘビ）・害虫・害獣をブロックする「マリンスター」、小さな田畑用の電柵「デンエモン」を斡旋しています。

このような機器は、動物を撃退するものではないことから、動物が慣れると効果が落ちることになりますので、設置位置を変更するなど対象動物を慣れさせない対策が必要となります。

また、熊対策は行政も取り組んでおりますので、ＪＡも行政と連携し熊対策に関する要望をしてまいります。

（５）肥料価格について

ＪＡの肥料などの生産資材価格は、当用価格・予約価格・大口購入者価格など、取扱の形態によって価格設定をしております。

当用価格は、物流などのコストを含んでいます。予約価格は、予約品目選定において、ホームセンターやインターネットの価格や競合店の価格を調査し、前年度の予約実績を基にスケールメリットを最大限にいかして、全農や業者との仕入価格交渉を行い、予約価格を設定するようにしています。また、肥料は、品質管理に十分に配慮した商品を提供が出来るように対応していますので、ご理解を賜りますようお願い致します。

（６）農機の修理体制について

全農京都府本部は、全農の「城陽農機センター」を廃止し、新たに、ICT 機能搭載農業機械の対応も可能な「山城農機整備センター」設置し、ＪＡと連携した農機事業の展開を提案してきました。

当ＪＡの農機事業は、担い手の減少によって農機市場の需要が落ち込み、恒常的な赤字事業が課題となっている一方、農業法人や集落営農組織などは大型農機などの高度な農機サービス提供拡大の期待もあります。また、中部農機センターは、老朽化と修理場所のスペースの問題から効率的な修理となっていない状況あり、夏場は猛暑の作業など職場環境にも問題がありましたので、移転することにしました。

農機対応としては、山城農機整備センターに一報を頂ければ、圃場や組合員宅にお伺いしますので、よろしくお願いします。また、出張費につきましては、出来る限りコスト高にならないようにします。

また、南部センターに乗用茶刈機を含む茶業用機械のセンターとして整備しました。